



Gold Link Corporation

GOLD FOURSEASONS REPORT

発行日 令和元年7月9日

目次：

今年第1四半期
の世界金需要 1

ゴールドの再貨
幣化！？ 5

2019年第1四半期の世界金需要

産金業界団体のワールド・ゴールド・カウンシル (WGC) が発表した『世界金需要報告』によると、2019年第1四半期(1月-3月)の世界金需要は、前年同期比7%増の1053.3トンとなりました。

中央銀行とETFが金需要を押し上げ

2018年第1四半期が比較的低調で、需要がわずか984.2トンと3年ぶりの水準まで減少したこととは対照的です。中央銀行は速いペースでの購入を継続しており、世界の金準備は145.5トン増加しました。金を裏付けとするETFの残高も伸び、これらの商品への第1四半期の資金流入額は49%増の40.3トンとなりました。金地金・金貨投資は、全体としては若干減少して257.8トン(-1%)でした。これは金地金需要の減少によるもので、公式な金貨購入量は12%増の56.1トンに達しまし

た。宝飾品需要は、インド市場の改善を主な理由として、前年同期比で若干増の530.3トンとなりました。

◎宝飾品

金宝飾品需要は若干増の530.3トン

- 需要増の大部分はインドによるものです。同国では国内金価格の調整が重なったことにより、婚礼関連の需要が押し上げられました。
- 米国の需要は9四半期連続で伸び、1%増の24トンとなりました。第1四半期の総需要としては、2009年第1四半期以来で最高水準に達しました。
- 一方、中国の需要は、景気の減速と貿易摩擦が四半期中の消費者センチメントに影響を及ぼし、前年同期比2%減の184.1トンとなりま

(2ページに続く)

	Q1.18	Q2.18	Q3.18	Q4.18	Q1.19	前年同期比
宝飾品	527.3	520.8	546.4	647.2	530.3	+1%
エレクトロニクス	65.3	66.5	68.8	67.8	62.9	-4%
その他	12.5	12.8	12.9	13.0	12.9	+3%
歯科	4.0	4.0	3.7	3.6	3.6	-11%
工業・歯科小計	81.8	83.3	85.4	84.3	79.3	-3%
金塊退蔵	195.6	179.7	211.8	194.7	185.4	-5%
公的金貨	50.2	51.4	71.4	67.9	56.1	+12%
メダル類	15.5	17.3	18.4	22.1	16.2	+5%
小売り投資小計	261.3	248.5	301.5	284.6	257.8	-1%
ETF・関連商品	27.1	33.8	-104.5	112.9	40.3	+49%
投資合計	288.4	282.3	197.0	397.5	298.1	+3%
中央銀行金購入	86.7	151.5	253.1	165.6	145.5	+68%
需要合計	984.2	1037.9	1081.9	1294.7	1053.3	+7%

今年第1四半期の世界金需要

した。

◎投資

金地金・金貨の需要は 若干減少して257.8トン。
ETFへの資金流入は40.3トン

- 金地金の需要は、中国の低迷を主な理由として5%減少しました。
- 対照的に、金貨の需要は複数の市場で増加し、世界全体では12%増となりました。
- 投資家は、金を裏付けとする世界のETFの残高を第1四半期に40.3トン増やしました。

☆ETF

金を裏付けとするETFの年初の滑り出しは好調で、第1四半期の世界の流入量は40.3トンとなりました。世界の運用資産残高は、第1四半期に約2%増加して、四半期末時点で2,482.8トン（1,034億米ドル）に達しました。地域別では、米国と欧州の上場商品に対して、それぞれ26.4トンおよび20トンと一定の資金流入がありました。一方、アジアやその他の地域の上場ファンドは、運用資産残高がやや減少（-6.1トン）しました。

米国の上場ファンドは、第1四半期に2%成長しました。北米市場に上場するファンドの残高は、11億米ドルの資金流入に相当する26.4トンの増加となりました。しかし、投資資金の流出は、第1四半期を通じて一貫していたわけではありませ

んでした。

1月の力強い資金流入（+53トン）は、米国の政府機関閉鎖、米国政府が貿易協議の予定をキャンセルしたことによる米中関係の緊迫化、米国経済の健全性に対する疑念の高まりに下支えされました。2月には、戦術的な投資家が持ち分の利益確定を実施したため、資金の流れがほぼ逆転することとなりました。米国の株式市場が過去10年で最高の四半期リターンを上げたにもかかわらず、第1四半期の投資家センチメントは、米連邦準備制度理事会（FRB）が以前よりも中立的な金融政策アプローチを採用したという姿勢の変化に基づくものでした。同時に市場の予測も、米国金利が上昇するという予定通りのシナリオから、年内の金利は据え置きという内容に変化し、金を裏付けとするETFの需要を支えました。このようにハト派的な見通しが強まったことが、2019年内の米国の金需要を下支えするとみられます。ただし、株式市場の堅調が続けば逆風となるでしょう。

欧州市場に上場するETFの運用資産残高は、引き続き過去最高付近となりました。年初の数週間でユーロ建ての金価格が18カ月ぶりの水準まで急騰する中、金を裏付けとする欧州のETFに投資資金が流入しました（+20.1トン）。こうした商品の運用資産残高は過去最高に達し、1,200トンを超えました。1月の資金流入以降は、投資資金の

■主要国需要							■世界金供給						
	2019年第1四半期			前年同期比				Q1.18	Q2.18	Q3.18	Q4.18	Q1.19	前年同期比
	宝飾品	投資	合計	宝飾品	投資	合計							
インド	125.7	33.6	159.3	5%	4%	5%	鉱山生産	843.3	871.9	884.3	903.4	852.4	+1%
中国	198.4	72.9	271.3	-2%	-8%	-3%	生産者ヘッジ	35.2	-37.1	-24.1	13.7	10.0	-72%
中東	45.6	17.2	62.8	2%	10%	4%	鉱山生産小計	878.5	834.8	860.2	917.1	862.4	
トルコ	8.9	16.4	25.3	-12%	25%	9%	リサイクル	274.6	289.5	319.2	284.8	287.6	5%
日本	3.4	-6.2	-2.8	2%	--	--	供給合計	1,153.1	1,124.3	1,179.4	1,201.9	1,150.0	0%
米国	24.0	7.6	31.6	1%	38%	8%	注1: 単位はトン						
欧州	12.7	44.4	57.1	-1%	10%	7%	注2: 上記のQは四半期						
注1: 単位はトン							注3: 前年同期比はQ1.18とQ1.19との比較						
注2: 前年同期比は18年第1四半期と19年第1四半期との比較													
注3: 中国の需要は台湾・香港を含んだ数値。													

今年第1四半期の世界金需要

推移は安定しており、2月の小幅な資金流出は3月に完全に相殺されました。

地政学的要素は、依然、欧州における投資の主な牽引役となっています。投資家は、低利回り/マイナス利回り、金融市場のボラティリティ、地政学的な懸念を背景として、**安全な逃避先としての金の地位を評価しています**。イタリアの財政赤字の急増と、英国のEU離脱をめぐる動きも懸念材料です。後者は、英国市場に上場するファンドの残高が、第1四半期に過去最高付近を維持した一因となりました。

☆金地金・金貨

2019年第1四半期の金地金・金貨の総需要は、前年同期比1.4%減の257.8トンとなりました。これは主として、中国の需要が減少したことによるもので、世界の金地金需要は前年同期比5%減少しました。

一方、公式な金貨需要は、前年同期比12%増の56.1トンに達し、2014年以来で最高の滑り出しを記録しました。増加の大部分は、イラン、トルコ、南アフリカ、英国および米国が占めました。

中国の個人投資家の需要は、第1四半期に8%減少して71.2トンとなりました。多くの投資家が、中国の旧正月を前にした人民元建て金価格の低下に乗じたため、年初の滑り出しは好調となりました。しかし、時とともに需要は減退し、2月と3月の個人投資家の関心は比較的低い水準に留まりました。代わりに、中国の個人投資家の多くは、株式市場の急騰（第1四半期の上海・深圳CSI 300指数は30%と驚異的な上昇）と通貨高に強く注目しました。両者はいずれも、国内の経済成長を加速することを目的とした、財政・金融政策が一助となりました。**中国の金取引市場では、国内の需給バランスがひっ迫する兆候が表れています**。金輸入は、当局による輸入割当の管理のため、第1四半期としては2014年以来で最低の水準に減少しました。供給が減少したことで、LBMA金価格に対する上海金ベンチマーク価格のプレミアムは上

昇しました。

第1四半期におけるインドの価格低下は、需要を前年同期比4%押し上げました。ルピーが上昇し、投資家が国内金価格の直近高値からの下落に乗じる中、インドにおける金地金・金貨の需要は、第1四半期に33.6トンまで増加しました。しかし、需要は増加したものの依然として軟調で、都市部の投資家の多くは引き続き株式市場の上昇に関心を向けています。

トルコの金地金・金貨市場は、2018年下半期は低調でしたが、第1四半期に息を吹き返しました。投資家が経済・政治の状況に対して不安を強める中、需要は前年同期比25%増の16.4トンに達しました。国内と海外の政治的緊張によって投資家の懸念が高まる一方、失業率はじりじりと15%に近づき、インフレ率もやや上昇しました。

米国の金地金・金貨需要は前年同期比38%増加しました。年初の滑り出しが好調となったのは、金に対する個人投資家の関心が大幅に回復したというよりも、2018年第1四半期の低迷を反映したものです。2019年第1四半期の需要は7.6トンと引き続き軟調で、過去3年と5年の四半期平均である12.9トンと13.7トンを大きく下回りました。1月の需要は特に突出して堅調でしたが、多くのディーラーは、3月に金価格が1,300米ドルを下回ったにもかかわらず、個人投資家が関心を向けなかったことに落胆していました。

経済と政治の不透明感が、欧州における投資の伸びの牽引役となりました。経済成長の鈍化、景気後退の可能性の上昇、政治リスクの持続に対する投資家の意識が高まったことにより、金地金・金貨の需要は10%増加して44トンに達しました。欧州最大の金市場であるドイツでは、需要は24.1トンと3%の小幅な増加となりました。しかし、成長の主な牽引役は欧州の小規模市場でした。英国では、EUからの秩序なき離脱により混乱が発生する可能性に備え、投資家が資産を保護しようとしたため、需要が58%増の3.6トンとなりました。こ

今年第1四半期の世界金需要

れは1億1,480万ポンド（1億4,950万米ドル）に相当し、四半期としては2012年以来で最高の金額です。

◎中央銀行

第1四半期の買い越し量は、2013年以来で最高

- 中央銀行による第1四半期の買い越し量は合計145.5トンとなりました。
- 第1四半期としては、買い越し量は2013年（179.1トン）以来で最高でした。
- 幅広い中央銀行が金購入を継続しており、9つの中央銀行が第1四半期に金準備を1トン以上買い増しました。過去4四半期の需要は、データを取り始めてから最高の715.7トンに増加しました。

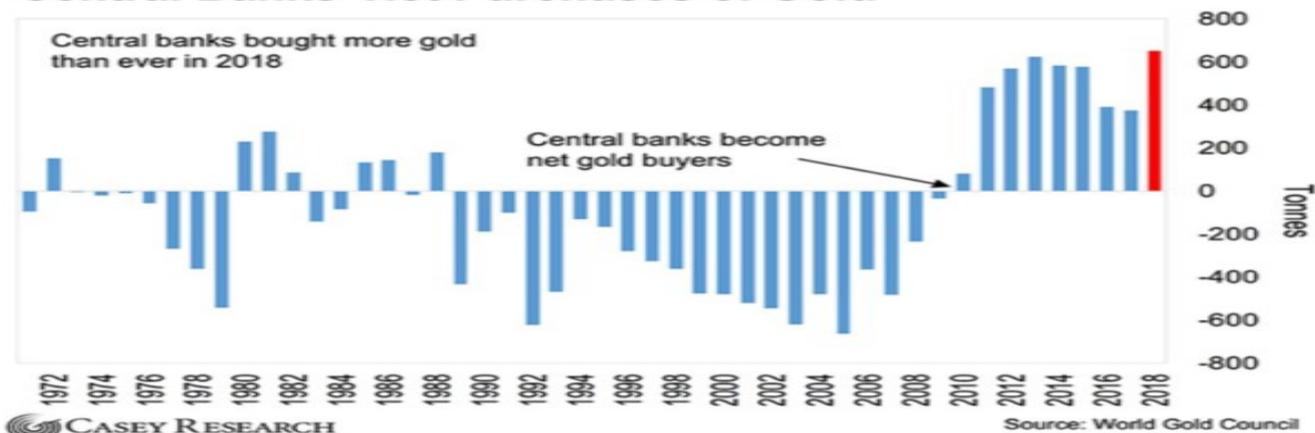
このセクターの需要は堅調を維持しました。2018年の中央銀行の買い越し量を50年ぶりの高水準に押し上げた要因は、2019年初めも健在でした。貿易摩擦、低成長と低金利/マイナス金利環境による経済的な不透明感、引き続き中央銀行にとって重い懸念となりました。地政学的な状況も依然として不安をもたらしています。こうした課題に直面した**中央銀行は、引き続き金を買いました。**量だけでなく世界的な広がりにおいても、買い越しは再び顕著な水準となりました。

ロシアは再度、最大の購入者となり、第1四半期に55.3トンを購入しました。これにより金準備

は2,168.3トン（準備高全体の19%）に達しました。ロシアは「**脱ドル化**」推進の一環として、**米国債の保有額を劇的に削減する一方、2018年に274.3トンの金を購入**（200トン以上の購入は4年連続）しました。第1四半期末後まもなく、ロシア中央銀行のセルゲイ・シュベツォフ副総裁は、「**経済制裁リスクの持続**」に直面する中で、「**外貨準備と金準備を一段と増やす**」ことが必要だと述べました。中央銀行による第1四半期の買い越し量は、前年同期比68%増の145.5トンに達しました。第1四半期の買い越し量としては2013年（179.1トン）以来で最高で、過去5年の四半期平均の129.2トンを大きく上回っています。

中国は25カ月の休止を経て、昨年12月から金の購入を再開し、第1四半期の買い越し量を33トンと発表しました。中国人民銀行（PBOC）による月次の買い越し量は、過去4カ月で平均11トンでした。現在の金準備は1,885.5トンで、準備高全体の3%未満となっています。その他の幾つかの中央銀行も、第1四半期に金準備を大幅に買い増しました。トルコも金の買い増しプログラムを継続し、40.1トンを購入しました。インドは9年間の休止を経て2018年に金購入を再開しており、第1四半期の購入量は8.4トンとなりました。インド準備銀行（RBI）の金準備は13カ月連続で増加しており、第1四半期末時点で608.8トンに達しています。

Central Banks' Net Purchases of Gold



ゴールドの再貨幣化！？

あるレポートをご紹介します。ゴールドの「再貨幣化」が進んでいるという内容です。少し難しいですが、ゴールドの今後について刺激的な内容となっております。

『「2019年にはとんでもないゴールド上昇相場が待ち構えている！？」』

今回の相場がよくあるゴールド上昇相場だとみていません。そうではなく、史上最大のゴールドの熱狂となるだろうとみています。今回のゴールド熱狂はとんでもなく力強いトレンドになるだろう。再度のゴールドの貨幣化です。

今回ほどの規模で金融システムにパラダイムシフトが起きたのは1971年以来のことです。

あのとき以降でゴールドはなんと2,300%も上昇しています。当初\$35だったのが1980年には\$850まで上昇しました。金鉱株はもっとすごかった。

現在、ゴールドはまだ安値から跳ね返っただけに過ぎません。金鉱株はまだとても安い。少なくとも前回のパラダイムシフト程度には大きなリターンがあると私は予想しています。ではその理由を見てみましょう。



①バーゼルIIIがゴールドを再度公式に通貨としようとしている

BIS（国際決済銀行）はその拠点をスイス、バーゼルに置いています。この組織は「中央銀行の銀行」と言われることが度々で、60の中央銀行が加盟しています。この組織は、決済プロセスが円滑になるよう手助けしています—とりわけゴールドの決済です—中央銀行間の決済であり、世界最大のゴールドプレイヤーです。

BISはまたバーゼル合意も取り決めています。世界の銀行業界の標準的な銀行運用規約です。今年4月1日に、バーゼルIIIが世界で施行されました。

この規約自体は、難しい専門用語でいっぱいですが、とても大切なのはゴールドに関するものです。以下の件に関してはゼロリスクを適用すると定められました。(i) 銀行が保有する現金、その受け渡し。そして(ii) **当該銀行が持つ金塊もしくは他行に預託している金塊、さらには金塊担保のある金塊資産**（預り証）。何十年ぶりかに国際金融システムでゴールドが格上げされたということです。

いまや銀行は自ら保有する金塊を、一定の環境下で、ゼロリスク資産とみなして良くなりました。これまでは、**ゴールドはリスク資産とみなされていました**。今回のようにゼロリスクとみなされることは殆どありませんでした。バーゼルIII 規約はゴールドをより魅力的なものにしました。

ゴールドこそ本当のマナー。急速に減価する紙の通貨よりもはるかに優れています。

バーゼルIIIが大切なのは、ゴールドに対する考え方と政策の転換開始を意味しているからです。バーゼルIIIによりゴールドが国際金融システム内でより公式に認識されることになりました。この施行でゴールドの再度の通貨化への一歩となるでしょう。

②中央銀行は記録的な量でゴールドを買い続けている

数世代ぶりに各国はゴールドをマナーとして取り扱い始めました・・・

2010年に、特筆すべきことが起きました。各国中央銀行はゴールドのネット売り手からネット買い手に転換したのです。中央銀行は世界のゴールド市場で最大のプレーヤーです。それ以来このトレンドは持続しています。2018年の報告では、各国中央銀行がなんと651トンのゴー

ゴールドの再貨幣化！？

ルドを購入しました。1971年以来の最高の購入額です。当時ニクソンがゴールド兌換を止めました。

ロシアが最大の買い手

この10年でロシアのゴールドの備蓄は4倍になりました。結果として世界5番目のゴールド備蓄を誇ります。

昨年ロシアは米国債を1000億ドル売却したことはよく知られています。そして、その大半をゴールドに変えました。この傾向が続くなら、ロシアは世界第三位のゴールド備蓄量となるでしょう。ロシアがゴールドを購入する主要因は、米ドルへの依存度を減らし、米国金融制裁の効果を緩和させることです。

これは他国も似たようなもので、ゴールドをマネーとみなしています。

たとえば、2016年のニュースですが、トルコとイランが「天然ガス決済をゴールドで行う」約束をしました。イランは米国の経済制裁下にあり、この合意に基づき、トルコはイランからの天然ガス輸入決済にゴールドを用いています。

ロシア、イラン、ベネズエラ等は、米ドルを必要としていません。彼らはビジネスや貿易決済にゴールドを用いています。ゴールドなら米国政府の管理下には無いからです。

ドルを金融武器として利用する米国政府から逃れるために如何にゴールドが重要かが解るでしょう。

③原油決済にゴールドー中国の最良代替手法 Golden Alternative

2017年に北朝鮮との緊張が高まったとき、北朝鮮に断固たる措置を取らないなら、米ドルシステムから中国を追放する、とトランプ政権の財務長官が脅しました。

もしこの脅迫が実行されると、北京政府にとってはとてつもない効果があります。

ドルへのアクセスが遮断されると、中国は原油の輸入も国際貿易もできなくなる。同国の経済は止まってしまう・・・。

中国は敵対国（アメリカ）への依存は望んでいないでしょう。

昨年のことですが、上海国際エネルギー取引所が人民元建て原油先物取引を始めました。第二次世界大戦後でみると、米ドル以外での巨額原油取引が行われるのははじめてのことです。当然のことながら、ほとんどの産油国は人民元の受け取りを望んではいません。

だからこそ、中国は明確に原油先物契約に関して人民元と現物ゴールドの変換とを抱き合わせました。 - - 中国政府の公式備蓄量には言及することは無く - - 上海と香港でのゴールド交換を通じて。（上海はすでに世界最大の現物ゴールド市場となっています）。

要約すると、中国のGolden Alternativeは産油国が原油支払いをゴールドで受け取るものであり、米国の金融制裁や規制、制限を回避できる手段です。

中国のGolden Alternativeにより、多額のオイルマネーは人民元やゴールドに流入するわけで、米ドルや米国債に変換されません。

CNBCの予想では、ドルを回避したオイルマネーの量はやがて6000億ドルから8000億ドルになると見られています。この決算の多くはゴールド市場に流入するでしょう。ところがこの市場は現在1700億ドルの規模しかありません。・・・・中国は世界最大の原油輸入国です。

今年だけでも、中国は一日980万バレルの原油を輸入しています。この数字は毎年10%増えると思われています。

今の所、原油価格は\$ 60/バレル程度です。ということは中国は毎日5億8800万ドルの原油を輸入しています。

今の所ゴールドは\$ 1,330/オンスで取引されています。

ゴールドの再貨幣化！？

ということは、中国は、毎日442,105オンスのゴールド相当の原油を輸入しています。控えめに見て中国の輸入の半分がすぐにゴールド決済になると、その需要は年間8,000万オンス（2488トン）にもなる - - これは世界ゴールド年間生産量の70%よりも大きい数字です。

この変化は、まだゴールド価格に織り込まれていません。これが実際に起きると、中国Golden Alternativeによるゴールドの需要増はゴールド市場にショックを引き起こし始めるでしょう。

④FEDの劇的な降伏

2008年の株価暴落で、FEDはいくつかの緊急措置をとりました。当時の議長、バーナンキはこれは一時的な対処だと議会証言しました。

一つは紙幣印刷ですが「量的緩和」と呼ばれました。このQEを通じてFEDは無から有を生み出すように3.7兆ドルの資金を創造しました。この新規創生マネーは、主に国債買取で作られました。これはFEDのバランスシートを膨れ上がらせました。FEDは、また金利を米国市場最低レベルに引き下げました。FEDは人工的に金利をゼロにし、これを6年以上も継続させました。

資本主義でもっとも重要な価格

金利とは単に借金の費用です。この金利引き下げがとんでもないインパクトを銀行、不動産、そして自動車産業に与えました。

2016年になり、FEDは金利を引き上げることで金融政策の「正常化」を試みましたが、バランスシートの規模を歴史的に正常なレベルまで引き下げるものです。この政策により、FEDは2005年の金融危機以来の緊急対策を反転させました。

金利はゼロから2.5%まで上昇し、そしてFEDはバランスシートを5000億ドル削減させました、ピーク時から11%減りました。しかしその後、株式市場は停滞しました・・・。

S&P500は2018年9月に2,930ポイントで天井を迎えました。12月遅くまでに、株価は急落し19%を超える下落となりました。

米国株式市場最悪の12月となりました。例外は1931年の12月だけです。これは大恐慌の最中のものでした。

これがFEDを驚かせ、近代史の中ではもっとも急激な金融政策転換を引き起こしました。

金融政策を正常化し、2008年以来のいわゆる「一時的」「緊急避難対策」を解消するのではなく、一長年の計画の上に正常化に進みましたが、FEDは降参しました。

今年はじめに、FEDは2019年にはもう金利を引き上げないと、さらにFEDはバランスシート縮小プログラムを秋には終了すると宣言しました。

これまでは、FEDは徐々にバランスシートを縮小し、その速度は300億ドル/月と言っていました。この亀のような速度では、金融危機前のバランスシートに戻すまでには10年を擁したでしょう。

緩和マネーに病みつき

この茶番劇を見れば解るのですが、米国経済は如何に大きく人工的低金利と緩和マネーに依存していたかということです。

すでに政府債務が22兆ドルもある状態でFEDが金利を正常化できないなら、将来政府債務が30兆ドルにもなれば金利を引き上げることなどできるでしょうか？

FED4.5兆ドルのバランスシートさえ、縮小することもできない。では、例えば今後バランスシートが10兆ドルになったときにどうやってバランスシートを縮小するのだろうか？

その答えは、そんなことはできないし、しようとも思わないということです。これだけ異常な政府

ゴールドの再貨幣化！？

債務を抱えた状態で米国政府は金利正常化をすることは不可能です。FEDは罠に陥っています。6年にも及ぶゼロ金利の後に、米国経済は緩和マネーという中毒になっている。緩やかにFEDのバランスシートを縮小することさえできない、2.5%の金利というのは米国史上平均よりもずいぶん低い。言い換えるなら、もう金融引き締めサイクルは終わりました。次の動きはQEとゼロ金利に舞い戻ることです、そしてたぶんマイナス金利になるでしょう。この動きは当然のことながらドルを弱くし、ゴールドにとっては望ましいものです。

引き締めから転換し将来の緩和シグナルを発することで、ゴールド市場にとってFEDはこれまでの向かい風から追い風になります。

⑤金鉱株産業の買収祭り

金鉱会社のM&Aに関して2019年は記録的な年でした。世界最大級の鉱山会社が巨額資金をM&Aに投入しました。

3つの大きな取引がこの結果を引き起こしました：

☞ ニューモントマイニングが100億ドルを投じて4月18日にゴールドコープを買収しました。

☞ バリックゴールドは1月1日にランドゴールドリソーシズを60億ドルで吸収しました。

さらにバリックゴールドは敵対的買収に失敗したニューモントとジョイントベンチャーを設立しました。（バリックとニューモントは世界で1番と2番手の金鉱会社です）。ネバダ州でのジョイントベンチャーは世界最大のゴールド産出プロジェクトになるでしょう。これらの巨大合併が示すことは、世界最大の金鉱会社はまだゴールドや金鉱株は安いと見ているということです。彼らは新規鉱脈を探すよりも他社を買収して成長することを選びました。この傾向が続くなら、2019年は記録的な金鉱会社M&A年になるだろう。ゴールドにとってはこれはもう一つの追い風です。

⑥トランプ大統領はゴールドを好む

トランプ大統領はゴールドが大好きです。（トランプタワーの自室も金ぴかです）その一つが、彼はゴールド投資で大儲けしました。彼が言うには「ゴールド投資は建設業ビジネスよりも簡単だ。」と。

しかしトランプがゴールドを好む理由にはもっと深いものがあります。彼はかつてこう言いました：

「ゴールドを貴金属コモディティとみなす考えはすでに変化しており、有用な通貨であり、世界的な金融標準として受け入れられようとしている。世界中の中央銀行が準備金として備蓄している。」

そしてトランプは金本位制が好きです・・・言い換えると、ゴールドの再貨幣化です。

大統領選の途中ではこうもいってました。

「金本位制に戻るのはとても難しいかもしれない。でもね、それは素晴らしいことだ。我々のマネーの基礎はそこに基づくべきだ。」

トランプはどの大統領よりもFEDへの影響力を行使しています、FEDが1913年に設立されて以来です。彼はFED役員7名のうち5名を指名することができる。

言い換えると、トランプはFED役員のうち70%以上に影響力を行使できます。そして、彼はゴールドを好む数人の候補を指名した、ハーマン=ケインとステファン=ムーアです。

ゴールドの再貨幣化！？

どちらも金本位制を支持する人間です。

たとえば、2012年に、当時ケインは会社を経営していました。彼はウォールストリートジャーナルに記事を寄稿しました。「我々はゴールドと等価なドルが必要だ」。彼はこう書いてます「ゴールドは放漫財政を行う政治家に対する（スーパーマンの）クリプトナイトだ。政府内部にいるたかり屋や浪費家に向けられるべきものだ。吸血鬼に対する日光やニンニクのようなものだ。」ケインやムーアは指名を辞退したが、しかしその次の候補ジュディ=シェルトンも金本位制を主張しています。

米国大統領がゴールドを好み、さらにはFED役員にゴールドを好む人を指名するというのは近年ではまずありえないことです。これはゴールドにとって好ましい兆候です—そしてゴールドを再度貨幣化するトレンドに関してもです。

⑦社会主義が勢力を持ちつつある

米国では社会主義が台頭しています。その考えが米国政策に染みつこうとしています。最近のある調査によると、ミレニアル世代の二人に一人は資本主義よりも社会主義や共産主義を好んでいるという結果が出ました。

だからこそバーニー・サンダース（前回の大統領選の民主党の候補者選でヒラリーと最後まで争った民主党の有力候補）やエリザベス・ウォーレン、カーマラ・ハリス、アレクサンドリア・オカシオ=コルテス（AOC）、その他の社会主義者が急速に人気を得ています。これは些細なことではありません。

今やミレニアル世代は米国人口動態で大きな割合を占めます。そして今年のだこかの時点で団塊の世代を超え、米国成人で最大の割合を占めることとなります。言い換えるならば、人口動態を見る限り、さらに社会主義が好まれるようになります。そしてこれまでも繰り返し見てきたことですが、「その政策実行のための予算はどうするのだい？」という質問に対し、社会主義者の答えはいつも同じです：「金持ちからの税金！」。簡単な計算ですぐに分かることですが、たとえ金持ちに限界まで課税したとしても、社会主義的な政策のための予算にはちっとも足りません。しかしこの件に関して、社会主義者はこう答えます：「そりゃ紙幣を印刷すれば済むことだろう！」と。

こうしてMMT理論（現代貨幣理論）を持ち出します。これが最近ワシントン界限での流行り言葉です。

その名前とは逆に、MMTはなにも新しいわけでも「モダン」でもありません。そして「理論」という言葉を付け加えることで、何かを科学的にとか信頼性があるようにできるものでもありません。MMTというのはアルゼンチンやベネズエラ、ジンバブエ、その他の国で起きたのと同じように悲惨な結果を生み出す偽療法でしょう。今や、左派リーダーや、米国エコノミスト、政治屋、そして政策立案者までが、これを真剣に取り上げます。彼らもよくわかっています。これはある種「国民のためのQE」のようなものだ。

実際に、MMT理論の主唱者ステファニー・ケルトン教授はバーニー・サンダースの経済アドバイザーを務めています。

簡単に言うと、米国の社会主義擁護者は、さらなる紙幣印刷と通貨の減価を引き起こすでしょう。これはこれまでどの国でも試みられたことです。

しかし、その減価される通貨が、アルゼンチンのペソでもベネズエラのボリビアでもない。それが米ドルになるだろう・・・世界一の準備通貨の。

米ドルに対してゴールドは第一競合通貨です。そして米国社会主義者がドルの価値を吹き飛ばそう

ゴールドの再貨幣化！？

としているわけで、ゴールドはさらに魅力的なものになるでしょう。

⑧ゴールド担保暗号通貨（＝ゴールドを裏付けとする仮想通貨）ー金融革命

最近のゴールドを巡る話題はゴールド担保暗号通貨です。ゴールド担保暗号通貨のスタートアップ企業がたくさんあります。

スプロット社のCEOピーター・グロスコフ氏は、最近ゴールド担保暗号通貨をこう評価しています「ここ何十年かでゴールド市場に起きた最重要事項だ」と。

その直後に、スプロット社はパートナーと共にゴールド担保暗号通貨運用を開始しました。鉱物資源産業でのリーダーであるスプロット社が、ゴールド担保暗号通貨に大きく踏み出したということは、物事がどう動くかの絶対的判断指標となります。ゴールド担保暗号通貨は、ゴールドと暗号通貨の最良の組み合わせです。これほどにシナジー効果のある他の組み合わせを考えることができません。言い換えると、2つの組み合わせでそれぞれよりも遥かに大きな価値を生み出しています。

暗号通貨をゴールドに買い戻せるわけで、我々は今や簡単にだれにでも世界中に少量でも多量でもゴールドを送ることができる。誰の干渉もなく信頼をもって。これほどの金融革命はありません。平均的な個人やビジネスにとって、ゴールド担保暗号通貨はとても便利なゴールド利用方法でしょう。これまではできなかったことですが、今や携帯電話でゴールドを使うことができます。これが一つの大きな理由です。どうしてこれからゴールドの再貨幣化が来ると思うかの。

すべてを総合的に勘案すると・・・

過去を振り返り大きな俯瞰図を見ると、ゴールドの影響はとても明確です。

- ①バーゼルIIIはゴールドを公式に再度貨幣化しようとしています。
- ②中央銀行は記録的な量のゴールドを買っています。
- ③米国の経済制裁が多くの国にゴールドの利用を迫っています。
- ④中国の「Golden Alternative」で大規模に原油のゴールド決済を推し進めています。
- ⑤FEDは劇的に政策転換をし、金融緩和に戻りました。ドルに対してゴールドが強くなる予兆です。
- ⑥金鉱会社の買収お祭り騒ぎということは、ゴールド価格にとっても強気なものです。
- ⑦トランプ大統領は金本位制への回帰を好んでいます。そしてFEDにゴールドを好む人を送り込んでいます。
- ⑧民主党が社会主義を好むということは、さらなるドルの減価を保証しています。
- ⑨ゴールド担保暗号通貨は、かつて無くゴールドの利用・保有を簡便にします。

これらのきっかけの一つだけでもゴールドにとっては素晴らしいニュースです。

しかしこれらが同時に起きているということは2019年にとんでもないゴールドの上昇が待ち構えているでしょう・・・』

いかがでしょうか。とびぬけているところもありますが、非現実的な夢物語とも思えないところもあります。静かに水面下でいろんなことが進行しているのでしょう。それらが、表面化したとき、今とはレンジの違う価格帯になりそうですね。ゴールドを保有するなら今しかありません。

ホームページもご覧下さい。
<http://www.goldtsumitatekun.com>

株式会社ゴールドリンク



東京都千代田区飯田橋2丁目8番5号

多幸ビル九段10階

電話 03(5275)5588

FAX 03(5275)5677

Email: info@goldtsumitatekun.com



GOLD FOURSEASONS REPORT

2019年夏号

2010年9月1日創刊 2019年7月12日発行 通巻第34号

●本誌に掲載されている情報は内容が正確であるよう最善を尽くしておりますが、内容についての一切の責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている情報に基づいて投資活動を行った結果、損害が発生したとしても、弊社はその責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている内容の著作権は、株式会社ゴールドリンクに帰属します。弊社に無断で転用、複製等することは固くお断りします。